

① バブル

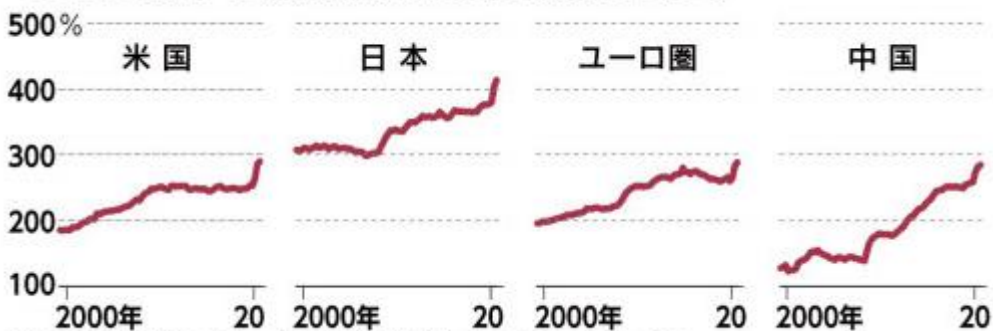
- ⇒ 日曜日の日経新聞1面の記事は大変分かりやすいですね
- ⇒ グラフの5つの指標がすべて株式や不動産・ハイイールド債が「極めて割高」であることを伝えています
- ⇒ ひたひたと「その時」が近づいているのを感じます
- ⇒ 下の2つのグラフからも分かりますように、とにかく「お金をバラマキすぎ」「借金をし過ぎ」です
- ⇒ そのツケが今から回ってくることになります

過去のバブル期を上回る指標も出始めた

	コロナ下	ITバブル	リーマン危機前
米時価総額のGDP比 (バフェット指標)	186%	143	108
株価の利益対比 (米CAPEレシオ)	34.8倍	44.2	27.6
特定銘柄への集中度 (米国の時価総額に占める上位10社の比率)	22.9%	22.4	16.5
住宅価格 (米住宅価格指数)	242.2 ポイント	111.8	206.7
高リスク債券の利回り (低格付け債と国債の спреッド)	3.8%	4.7	2.3

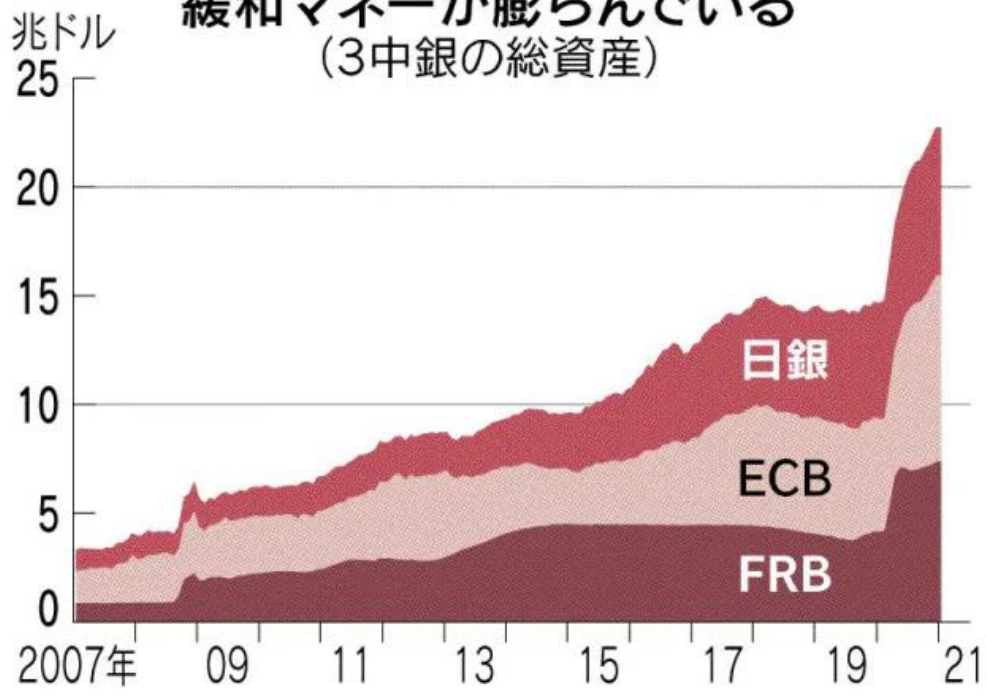
(出所) QUICK・ファクトセット、米エール大

GDPに対する債務残高は過去最悪の水準



(注) GDPに対する政府、家計、企業(金融除く)の債務の比率。BIS

緩和マネーが膨らんでいる (3中銀の総資産)



② テスラ & NASDAQ

- ⇒ 市場が注視するのは米資産運用会社アーク・インベストが手掛ける上場投資信託(ETF)
- ⇒ 運用資産総額 210 億ドル(2 兆 2000 億円)超の旗艦ファンド「アーク・イノベーション ETF」から断続的に資金が流出している
- ⇒ 組み入れ銘柄首位はテスラだ
- ⇒ ファンドの換金売りが株安を招き、株安がさらなるファンド解約を誘発する悪循環が警戒されている
- ⇒ ナスダック総合株価指数は 5 日午前にも一時、2.6%安まで下落した
- ⇒ 2 月 12 日に付けた史上最高値からの下落率が 12%となり、「調整局面入り」の目安とされる 10%を超えた
- ⇒ 調整局面に入ると相場停滞がしばらく続きやすい
- ⇒ ハイテク売りを受けて、別名「恐怖指数」と呼ばれる米株の変動性指数(VIX)は一時、前日比 5%高い 30 台に上昇した
- ⇒ テスラの株価はあっという間に 2/3 になってしまいました
- ⇒ 今後、悪影響を受けたファンド等の解約が続出すると思います

③ バイデン氏 米 IT 規制派起用 特別補佐官にウー氏

- ⇒ バイデン米大統領は 5 日、国家経済会議(NEC)のテクノロジー・競争政策担当の大統領特別補佐官としてコロンビア大のティム・ウー教授を起用したと発表した
- ⇒ ウー氏は少数の巨大 IT 企業が支配するデジタル市場への批判で知られており、政権が規制強化を推進するとの見方が強まっている
- ⇒ ウー氏はグーグルやフェイスブック、アマゾンといった巨大 IT 企業の寡占が進んでいる現状に警鐘を鳴らし、巨大 IT 企業の解体や反トラスト法(独占禁止法)の強化を主張していた
- ⇒ ウー氏の起用に関連して、サキ大統領報道官は同日の会見で「(バイデン)大統領は巨大テック企業やその経営陣らによる力の乱用に立ち向かう考えを明確にしている」と指摘
- ⇒ 米巨大IT企業は会社分割など、今後厳しい状況に向かうと思います